

韓国における言語的性差研究の現状と問題点

金 世晶

1. はじめに

性差を持たない言語はおそらくないだろう。しかし、その違いの程度は言語によって異なり、性差の大きい言語もあれば小さい言語もある。日本語は性差の大きい言語の代表で、終助詞、人称代名詞、美化語、感嘆詞などにおいて男性が使用する言葉とは異なる女性特有の表現があり、女性語という言語変種が明らかに存在し、また男性語も同様である。これに対して、韓国語は言語的性差が非常に小さい言語であるとされている。実際の発話を聞けば、男性と女性とでは声の高さや音質が違うので簡単に区別できるけれども、それを文字化すれば男女差がほとんどなくなってしまう。例えば、小説の会話部分が女性によるものであるか男性によるものであるかは、前後関係や話の内容から判断するしかない場合がほとんどである。これに対して日本語では、文字化された発話であっても簡単に男女の区別ができるほど手がかりが多い。しかし、韓国語に性差が全くないかという点を決してそうではない。韓国人であれば誰でもある程度「男性っぽい言葉遣い」とか「女性っぽい言葉遣い」ということについて共通の認識を持っている。これは性差を意識させる何らかの言語的特徴がなければありえないことである。

性別言語は、特定の性によって独占的に用いられるかどうかによって「絶対性別語」と「相対性別語」に区分される。女性語について言えば、「絶対女性語」とは、女性だけが、あるいは女性に関してのみ用いる表現、あるいは言語行為を指す。一方、「相対女性語」とは、女性が好んで、あるいは主として女性に対して用いる表現、あるいは言語行為のことをいう。この区分に従って言えば、日本語のように言語的性差の大きい言語には、絶対性別語(絶対女性語/男性語)が発達しており、韓国語のように性差の小さい言語では、観察される性差のほとんどは相対的なものであるに過ぎない。韓国語に絶対性別語がまったくないわけではないけれども、非常に限られた現象である。¹

絶対的性差を持つ言語の方が相対的性差しか持たない言語よりも性差研究の対象になりやすい。それは、性差を生じさせる言語現象を容易に指摘できるからである。そのため、性差の大きい日本語のような言語とは違って、性差の小さい韓国語において、女性語あるいは女ことばと呼ばれる現象は本格的な言語学的研究の対象にはなりにくいテーマであった。したがって、日本語の場合に比べると、韓国語の性差研究は歴史もはるかに浅く、先行研究の量も非常に限られている。

本稿では、韓国語の女性語に関する主要な先行研究を紹介し、その問題点と今後の課題を指摘する。

2. 韓国語の女性語研究の現状

韓国語の性差に関する研究は、20年足らずの歴史しか持たない。したがって、先行研究の数も、日本語の女性語に関する研究に比べればはるかに少ない。しかし、海外における女性問題研究の高まりの影響を受けて、過去10年余りの間に韓国語の性差の問題を本格的に取り上げる研究が発表され、その過程で、現代韓国語の女性語的(あるいは男性語的)特徴とみなされる言語現象が明らかにされてきた。先行研究のうち、韓国語の女性語研究の現状を代表すると考えられる、**김선희(1991)**と**민현식(1995)**の記述の概要を次に紹介することにする。

2.1 김선희(1991)

김선희(1991)は、小説とテレビ番組を資料として女性語表現の特徴を分析している。女性語の一般的な特徴は、「力と格式(formality)よりは親和力(solidarity)を表すことにその目的がある」とし、²「間接的表現」「感情移入のための表現」「有標的表現」の3種類に区分して論じている。

(1) 間接的表現

間接的表現とは「聞き手と話し手相互の人間関係において、対決と葛藤を回避するための遜った話法の特徴として表れたもの」³のことであり、女性語に顕著に見られる表現である。これは、さらに「代用語付加疑問法の使用」「曖昧な

表現の使用」「遜りを示す表現の使用」の3つの場合に分けられる。

① 代用語付加疑問法の使用⁴

命令とか断言を付加疑問文に変えて言うと、話し手の主張が緩和される。それによって聞き手に命令、依頼、提案などを拒否する余地を与えることになるので、遜った表現として女性が好んで使う。

제발 라디오 좀 꺼줘, 응? (お願い、ラジオちょっと消してよ、ね?)

당신은 겁장이가 아니죠, 그렇죠? (あなた臆病者じゃないわよね、でしょう?)

난 네 행동이 잘못되었다고 보는데, 안 그래? (私はあんたの行動が間違ってると思うけど、そう思わない?)

② 曖昧な表現の使用⁵

曖昧な表現を用いると、聞き手の心的負担を減らす効果を生じることがある。相手の間に対して「글쎄(さあ)、그냥(ただ)、ㄴ것 같다(~みたいだ)」などを用いて答えると、肯定の意味を含意しながら断定的な答えを避けることにより、間接的に相手の判断に任せるというニュアンスを伝えることができる。自分を前面に出さない表現であり、遜りの表現となる。

글쎄, 뭐라고 말씀 드릴 수 있을까요?(さあ、なんと申し上げればいいんでしょうか?)

이거 어떠세요?(これはいかがですか?)

—글쎄, 좋은 것 같아요.(まあ、いいみたいですね。)

무엇을 먹을까요?(何を食べましょうか?)

—글쎄요, 좋으실 대로 하세요.(そうですね、お好きなものにしてください。)

③ 遜りを示す表現の使用⁶

女性は「좀(ちょっと)、제발(どうか)、뭐(まあ)、-어 주다(てくれる)、-어 보다(てみる)」などの表現を使うことによって相手に対する強要を緩和し、

意見が一致しない場合の衝撃を和らげることが多い。例えば、次のような表現では後のものほど遜った表現となる。

정오까지 이리로 오세요.(正午までにこちらに来てください。)

정오까지 이리로 좀 오세요.(正午までにこちらにちょっと来てください。)

정오까지 이리로 좀 와 주세요.(正午までにこちらにちょっとおいでください。)

내일 꼭 가세요.(明日必ず行ってください。)

(제발) 내일 꼭 좀 가세요.(どうか明日ちょっと行ってください。)

(제발) 내일 꼭 좀 가 보세요.(どうか明日ちょっと行ってみてください。)

(2) 感情移入のための表現

女性は自分のことについて話をする場合、自分の経験世界を相手のそれと一致させるために、特定の言語形式を用いて談話の効率性を高め親和力を高めようとする傾向がある。⁷ 具体的には、付加疑問文の使用、他人に対する家族的呼称や語法の使用などがある。

①付加疑問文

너도 알지만 그 사람은 따지기를 좋아하지 않니?(あんたも知ってると思うけど、あの人いちいちうるさいと思わない?)

내가 어제 미리 갔지 알아요?(私が昨日先に帰ったんじゃないですか?)

②家族的呼称

実際には家族ではない人に対して家族的呼称を用いることによって親近感を高める。

언니, 이 옷 참 잘 받는다.(お姉さん、この服本当に似合うわよ。)[洋品店で客に]

어머니, 본견으로 한번 해 입어 보세요.(お母さん、本絹で一回作って着てみてくださいよ。)[生地屋で客に]

③家族的語法の하우体

하우体は、主として女性が、家族関係・親族関係にある者に対して親近感を表すために用いる語法である。

엄마는 왜 김치까지 담가놓고 그러우?(お母さんはキムチまで漬けておいてくれたの?) [娘が母に]

오빠, 일이란게 다 그런거 아니우?(お兄さん、世の中ってみんなそんなもんじゃないの?) [妹が兄に]

この語法は、家族関係・親族関係を離れて、他人に対して親しみを込めるために用いられることもある。

애기엄마, 어제 바빴수?(奥さん、昨日忙しかったの?) [近所の奥さんが]

내일 좀 일찍 출근할 수 있수?(明日ちょっと早めに出勤できるかしら?) [女性校長が教師に]

이쪽으로 쪽 가면 된다우.(こっちにまっすぐ行けばいいのよ。) [中高年女性が道を尋ねる青年に]

(3) 有標的表現

女性は、自分自身を目立たせるために、特定の表現形式を好んで使うことがある。⁸ 強調表現の使用と上昇調抑揚の使用に分けられる。

① 強調表現の使用⁹

女性は程度副詞を反復したり、強調度の高い副詞を多用したり、あるいは誇張的表現を用いることによって自分の感覚を強調する傾向がある。

무지(무지) 재미있었어.(メッチャメチャ楽しかった。)

정말이지, 결혼 같은거 안 하고 좀 살 수 없나?(本当に、結婚なんかしないで生きていけないかしら?)

어머나? 그런 얘기가 어디있어요?(あらまあ、そんな話しがどこにあるんですか?)

また、平叙形語末語尾「-다」を感嘆形として使うのもこの類に属するものと考えられる。

너 몰라보게 예뻐졌다.(あなた、見違えるほどきれいになったね！)
아저씨께서 정말 너무 하셨습니다.(おじさんがひど過ぎるわ。)

聞き手が目上であるかどうかに関わりなく、本来ぞんざい体である語末語尾「-다」を感嘆文として用いるのは、女性語の特性である親和力と密接な関係があると思われる。

さらに、敬意を表す必要のない相手に対して敬語の「-시」を使うことによって、非難や不平を表現するというのも、一種の強調語法とみなすことができる。

오늘따라 이상하게 감정적이시네.(今日に限って変に感情的でいらっしゃるのね。)[妻が夫に]
흥, 굉장하시군, 잘해 보시라고.(フン! 大したものだこと。やってごらんなさいよ。)[姉が妹に]

これは、敬語を用いることによって親和力を弱め、その結果、非難や不平を表すことになると考えられる。

② 上昇調抑揚の使用¹⁰

女性の発話では、疑問文ばかりでなく平叙文でも、あるいは文中のでも、上昇調の抑揚がよく使われる。

어서 오십시오.↘ 고맙습니다.↘(いらっしゃいませ。ありがとうございました。)[男の店員]
어서 오십시오.↗ 고맙습니다.↗(いらっしゃいませ。ありがとうございました。)[女の店員]

2.2 민현식(1995)

민현식(1995)は、韓国語の女性発話語の特性を、「音韻的特性」「文法的特性」「語彙的特性」「語用論的特性」に分けて記述している。

(1) 音韻的特性¹¹

女性の発話では平叙文にも上昇抑揚が使われる。上昇抑揚は文末ばかりでなく文中の接続語尾の位置にも現われる。例えば、次のようなテレビ番組での女性同士の対話で、最初の発話の末尾は付加疑問文「-잡아요(…じゃないですか)」であるので当然上昇調で発話されているが、後の発話の接続形「-구, -구」と終結形「-죠」にも上昇抑揚が置かれている。

추석 차례상에는 ㄹ 과일이 필요하잖아요(お盆のお供えには果物が必要じゃないですか?)

사과도 필요하구 ㄹ 배도 필요하구 ㄹ 또 밤도 준비해야죠(リンゴも要るし、梨も要るし、また、栗も用意しなければなりませんね。)

女性は平叙文と疑問文を形式的に区別しない **해요**体を使うことが多く、そのどちらも上昇調で発話されるので、平叙文か疑問文かの区別は、全く文脈に依存してなされる。

男性の発話にはこのような上昇抑揚は現われない。ただ、新世代の男性の発話で用いられることがある。민현식はその理由を養育過程で上昇抑揚を用いる母親の語法を真似たためであったり、あるいは新世代の言行で男女の差が崩れる男女平等文化の趨勢のためであったり、男性が女性の愛嬌のある恭遜抑揚を対話戦略上有用であるとして採択したためである、と解釈している。¹²

女性の上昇抑揚は、日常的な発話ばかりでなく、テレビ放送などでも用いられる。くだけた取材番組の女性記者は、大抵、平叙文に上昇抑揚を用いている。しかし、格式ばったニュース報道では、男性記者と同様、断言的な下降抑揚を使っている。

(2) 文法的特性

韓国語の女性発話語の文法的特性としては疑問文の過剰使用、**해요**体の使用を挙げることができる。

① 疑問文の過剰使用¹³

女性は、相手を対話に継続的に引き込み対話の親しみを増すために、反応誘導的な目的の質問をよくする。また、女性は男性のように断言できないので、同意確認的な疑問文を用いると見られることもできる。

② **해요**体の使用¹⁴

女性特有の終結語法として、**해요**体と**하우**体¹⁵の使用を挙げることができる。**해요**体は今日男性の発話にも一般化しているが、これは女性語法の勢力拡大とみることができる。

해요体の表現の一種である回想形の「**-더라구요**(~してましたよ)」や「**-거 같아요**(~するみたいです)」も女性がよく使う。

유행이 홍콩에서 일본으로 가더라구요.(流行が香港から日本へ入ってきてましたよ。)

CF 찍게 해 주시더라구요.(CMの撮影ができるようにしてくださいました。)

엔고에도 불구하고 그러니까 으음 매출 실적이 좋았던 거 같아요.(円高にも関わらず、つまり、えーっと、売り出しの実績がよかったみたいです。)

「**-더라구요**」は、自分の回想・経験を伝える語法であるが、それによって相手との親和力を高めるための語法とも見ることができるし、また、自分の経験を他人事のように伝える責任回避的な自信のない曖昧語法

(hedge)とも感じられる。「-거 같아요」も同様に、自分の考えを断定的に述べることができない自信のない表現のように感じられる。しかし、「-거 같아요」の方は男性にも一般化しつつある。

女性が断定的な言葉づかいを避けることは、男性が同輩同士でぞんざいな言葉づかいをするとき、疑問形として「냐形」を主として使うのに対して、女性は権威的な感じのない「니形」を使うことにも現われている。

(3) 語彙的特性

女性語の特徴は語彙にも現れる。特定の副詞や感嘆詞(あるいは感嘆詞相当の独立語)をよく使い、反面、悪態や禁忌語はあまり使用しない。

① 副詞、感嘆詞¹⁶

「좀(ちょっと)、아마(多分)」などの副詞や「몰라(知らない)、글쎄(そうだね)」などの感嘆詞(相当語)は女性特有の曖昧語法として感じられ、一方、「너무너무(とっても)、무지무지(めちゃくちゃ)、굉장히(ものすごく)、막(ひどく)」などの副詞や「어머(あら)、어째(どうしよう)」などの感嘆詞は誇張語法として映る。このような感性語法はともに女性を非論理的存在に見させる根拠とされる。一般に、男性は副詞の「너무(あまり)、무지(ものすごく)」を使っても、その反復形の「너무너무(とっても)、무지무지(めちゃくちゃ)」はあまり使わない。

② 悪態、禁忌語

女性は、男性がよく用いる悪態や禁忌語をほとんど用いない。これは教養語法の一側面である。

③ 関心語の違い

女性は家事、育児、料理、裁縫、衣服などに関心があり、その関係の用語をよく使うが、男性はそれらを知らない。逆に、女性は男性が関心を持つ政治、スポーツ、性、専門職業に関する語彙は、よく分からずあまり使わない。

④ 応答語

質問に対する肯定の答えとして、女性は「네」、男性は「예」をよく使う

と言われるが、絶対的な差ではない。

(4) 語用論的特性¹⁷

女性の発話の語用論的特性として、多弁性、協同的対話、あいづち、曖昧語法、賛辞、恭遜語法などの項目に分けて論じている。

① 多弁性

女性は男性に比べて多弁であると言われるが、これは女性に対する偏見の可能性もある。男女が交じり合った集団では、むしろ男性の方が多弁である。

② 協同的対話

男性は相手の話しを無視したり異を唱えたりする傾向があるに
対して、女性は互いに意見を認め合う傾向がある。話題も、男性はスポーツ、性、政治などが多いが、女性は育児、病気、家事、買い物などが多く、それには隣近所の間柄や知り合いの間での協同的知識が要求される。

③ あいづち

男性よりも女性の方が「응(うん)、그래(そう)、맞아(そう)」などのあいづちをよく打ち、聞き手に回って対話を支援する。男性はあいづちを打つことが少なく、沈黙することによって対話の主導権を握ろうとする傾向がある。

④ 曖昧語法

女性は、「~하더라구요(～してましたよ)」「-거 같아요(…みたいです)」

「-지 뭐(…するわよ)」のような曖昧な表現や、「-잖아요? (…じゃない?)」

「아시죠? (ご存知でしょ?)」のような付加疑問文、あるいは「글쎄요(そうですねえ)」「몰라요(知りません)」などのような明言を避けるための表現をよく使う。

⑤ 賛辞

女性は、男性に比べて、相手をほめることが多い。「スリムに見えるね」「若く見えるね」「ヘアスタイルが素敵だね」「その服よく似合うじゃない」など容貌や衣服、装身具などをほめることが多い。

⑥ 恭遜語法

上昇抑揚の平叙文、**해요**体、同意確認のための付加疑問、曖昧語法、あいつちなどは女性特有の恭遜語法である。この他に、直接的な命令より「**~해 주시지 않겠어요?** (～していただけますか?)」のような間接命令をよく用いることや「**~해 주세요**(～してください)」のような遜った請誘表現をよくつかうこともこの類である。

3. 問題点と今後の課題

上に紹介した2つの研究は、韓国語の性差、特に女性語の特徴全般に関して豊富な例を挙げて綿密に論じたものであり、このテーマの研究の現状を代表するものであると見なすことができる。この他にもいくつかの先行研究があるが、規模と分析の精度においてこの両者を凌ぐものではない。

両研究を比べ合わせてみると、女性語的特徴の分類の仕方や具体例については違いがあるけれども、基本的には同じような言語現象を取り上げ、基本的に同じ観点から解釈している。後に続く研究は先に発表された研究を踏まえてなされるものであるから、ある程度互いに似通ったものになるのは当然であるかもしれない。しかしながら、両者の記述内容が類似しているのは、一方が他方を参考にしたことから生じたものではなく、両者に、そしてその他の先行研究にも共通する研究を出発点としているためであると考えられる。その出発点となった研究とは、Robin Lakoff の *Language and Woman's Place* である。김선희(1991)も민현식(1995)も、個々の女性語特徴の分析に関して、この研究

を参考にしたことを明示していないけれども、参考文献には挙げており重要な示唆を得ていることは明らかである。

1970年代に入って米国を中心に女性解放運動が台頭するに伴い、その運動の一環として、男女差別的な社会構造と女性語の相関性をイデオロギー的次元から研究しようとする試みが活発になった。その過程で出版されたのが Robin Lakoff の *Language and Woman's Place* (1975) である。これは、女性語研究の教科書的位置を占めており、韓国における女性語研究でその影響を受けていないものはないと言っても過言ではない。

以下、Lakoff が提示している女性語の特徴のうち、主なものを簡単にまとめてみることにする。

① 不確実な曖昧語法の多様

女性は、‘I guess’、‘I think’、‘I wonder’ のような不確実な曖昧語法や自信のない語法をよく使う。これが女性の言語礼節の規範となっており、女性は自己防衛のためにこのような語法を使用する。

② 女性特有の感嘆詞、副詞、形容詞の使用

女性は、女性特有の感嘆詞(oh dear, oh fudge)、副詞(so much)、形容詞(adorable, charming, lovely)などを好んで使用する。

③ 疑問文や付加疑問文の多用

女性は、疑問文や付加疑問文をよく使う。これは、相手の同意を求める礼節話法であり、聞き手依存的な不確実な語法であるとも考えられる。また、これは、男性中心の社会で、女性が責任を回避し生存するための自己防衛の結果と見ることもできる。

④ 婉曲表現や遜り表現の使用

女性は、男性に比べて間接的な婉曲表現や遜り表現をよく駆使する。例えば、ドアを閉めることを相手に要請するための次のような一連の表現において、

- 1) Close the door.
- 2) Please close the door.
- 3) Will you close the door?
- 4) Will you please close the door?
- 5) Won't you close the door?

1)から5)に向かうほど、間接的で遜った、女性的と感じられる表現である。

- ⑤ 女性関連語には、卑下的価値を伴うものが多い。

例えば、次のような男性指示語と女性指示語の対において、女性指示語には軽蔑的な価値を伴う派生的意味がある。

master(大家)	mistress(妾、情婦)
dog(雄犬)	bitch(雌犬、淫乱な女性)
fox(狐)	vixen(雌狐、意地悪な女)
bachelor(未婚男性)	spinster(未婚女性、神経質な女性)

また、次の‘professional’のように、女性について用いられると軽蔑的意味を生じる場合がある。

He is a professional.(彼は専門家だ。)

She is a professional.(彼女は娼婦だ。)

- ⑥ 女性語は、男性語を基準にして作られるものが多い

doctor(医者)	woman doctor(女医)
salesman(男性販売員)	saleswoman(女性販売員)

Lakoff は、このような言語事実の考察を通じて、男性と女性の社会的不均衡と不平等を自覚しこれを改善するためには、言語学的観点からの性差の研究が非常に有意義であることを強調した。彼女はまた、社会における女性の地位向上なしに、ただ言語的变化だけを追及することではどんな解決もありえないとも述べている。¹⁸

一見して明らかなように、Lakoff の分析は韓国における女性語研究の土台となっている。特に、①から④までの特徴は、韓国語の女性語特徴の分析で重要な役割を果たしている。分析対象とする言語は英語と韓国語で異なるけれども、女性語的特徴を分析し記述する視点はほとんど一致している。

韓国の女性語研究が Lakoff の研究を出発点としていることは、それ自体、何の問題もない。むしろ当然の成り行きであったと考えられる。Lakoff が分析の対象とした英語は、たまたま、韓国語と同様に性差のあまり大きくない言語であった。したがって、彼女の分析が韓国語に関する性差研究の大きなヒントになったのは当然のことである。それは、もちろん、Lakoff の分析、論証の確か

さも大いに係わっていたと思われる。韓国における研究のほとんどすべてがこれを前提としており、Lakoff の女性語に関する概念と枠組みを韓国語に当てはめるといって進められてきたといっても過言ではない。その結果、韓国語における女性語的(あるいは男性語的)特徴が次第に明確な形で述べられるようになってきた。このような過程は、韓国語の性差研究を軌道にのせる上で重要なステップであったとすることができる。

しかしながら、いくら Lakoff の分析が有効なものであったとしても、それをそのまま韓国語の女性語的特徴の分析に応用しただけでは、この分野の研究の発展にはつながらないと思われる。歴史が浅いとは言っても、現代韓国語の性差研究は 20 年にわたって行われてきた。その間に、韓国語の女性語あるいは男性語の特徴と考えられるものがすべて出尽くしたとは言えないけれども、主な特徴は大体指摘されていると考えられる。この時点で、これまでの研究成果を別な観点から検討しなおしてみるべきではないかと思われる。その観点の一つは、Lakoff の女性語の社会学的な意味解釈の再検討である。女性の社会的な地位については、文化の違いを超えた共通性があると考えられるが、歴史も社会構造も異なる韓国と英国や米国とでは、女性の社会的位置づけや女性が持つ価値観などには、大きな違いがあるはずである。そのような違いを無視して Lakoff の女性語に関する概念や枠組みがそのまま当てはまるかどうか、批判的な視点から検討しなおす必要があるのではないかと考えられる。

もう一つの観点は、これまで韓国の女性語あるいは男性語の特徴とされてきた言語現象が、はたしてそう断定できるかどうかを、現実の言語活動の綿密な観察を通じて、やはり批判的に検討してみることである。韓国語における言語的性差の特徴を明らかにしてきた先行研究が、今後の研究の土台となることは確かである。しかし、それによって得られた知見の妥当性を高めるためには、実証的な検証が不可欠である。つまり、今後の研究は、実際の発話資料の収集とその分析を出発点にしなければならないと思われる。分析資料はもちろん現実の発話であることが望ましいが、現実の発話の場合、有意味な分析に必要な大量の記録をとることが難しいなどの難点がある。そのため、現代の言語生活の語法を比較的忠実に反映していると考えられるテレビドラマや対談番組、あるいはトークショーなどの現実の発話に近い放送記録を、資料とすることが有効ではないかと考えられる。また、特定の発話者毎に言語の使用状況を調査するのではなく、多数の発話者を対象にして調査を行い、個人差に左右されない

一般的な言語使用の実態を調査する必要があると思われる。

注

- 1 韓国語の絶対女性語は、親族名称の中にその例を見つけることができる。例えば、年上の兄弟を指す場合の表現は、年下の発話者が男性であるか女性であるかによって異なる。つまり、弟は姉のことを누나 /nuna/、兄のことを형 /hyeong/と呼び、妹は姉のことを언니 /eonni/、兄のことを오빠 /oppa/と呼ぶ。しかし、このような一部の親族名称の場合を除けば、韓国語には絶対的女性語/男性語と呼べるものはない。

このような親族名称の性差は女性発話語／男性発話語の対立である。女性対象語／男性対象語にまで範囲を広げれば、絶対的性差の例は数多く存在する。「어머니 (母)、할머니 (祖母)、아내 (妻)、신부 (新婦)、공주 (王女)」など女性のみを指す語は絶対的女性対象語であり、「아버지 (父)、할아버지 (祖父)、남편 (夫)、신랑 (新郎)、왕자 (王子)」など男性のみを指す語は絶対的男性対象語ということになる。しかし、このような例は、女性問題との関係では取り上げられることがあるけれども、単純に言語学的に性差を論じる際には大して興味のあることではない。

- 2 김선희(1991), p.112
- 3 김선희(1991), p.112
- 4 김선희(1991), p.113
- 5 김선희(1991), pp.114-115
- 6 김선희(1991), pp.115-116
- 7 김선희(1991), pp.117-119
- 8 김선희(1991), p.121
- 9 김선희(1991), pp.121-124
- 10 김선희(1991), pp.124-125
- 11 민현식(1995), pp.37-39
- 12 민현식(1995), pp.38-39
- 13 민현식(1995), pp.44-45
- 14 민현식(1995), pp.45-48
- 15 하우체については김선희(1991), pp.119-120 を参照。
- 16 민현식(1995), p.49
- 17 민현식(1995), pp. 51-56
- 18 Lakoff(1975), pp.46-47

参考文献

- Robin Lakoff(1975) *Language and Woman's Place*, Cambridge Univ. Press
井出祥子(1979)『女のことば 男のことば』日本経済通信社

- 井出祥子・川成美香(1984)「日本の女性語・世界の女性語」『言語生活』387 卷、32-39 頁
- 小沢遼子(1980)「女たちとことばの現状」『月刊ことば』4 卷 4 号、26-33 頁
- 강정희(1989)「女性語의 한 類型에 관한 調査研究」『国語学新研究』pp.473-482
- 김선희(1991)「여성어에 관한 고찰」『牧園大学論文集』第 9 輯、pp.111-127
- 민현식(1995)「국어의 여성어 연구」『垂細垂女性研究』34、pp.7-64
- (1996)「국어의性別語(genderlect)연구사」『사회언어학』第 4 卷、2 号、pp.3-29
- (1997)「국어 남녀 언어의 사회언어학적 특성 연구」『사회언어학』第 5 卷、2 号、pp.529-587
- 오주영(1983)「男性語와 女性語의 差異」『釜山産業大学論文集』第 4 集、pp.149-163
- 이을환(1999)『한국의 여성 언어』淑明女子大学校出版部
- 이창숙(1995)「国語의 女性語 研究」『江南語文』pp.211-236